社会学部報

◇学術講演会

社会学部では，1987年10月30日（金）午前10時50分から第5別館6号教室で学術講演会を開催した。講師はNHK大阪放送局制作部チーフ・ディレクター・福田雅子氏。氏はラジオ番組・ドキュメンタリー「25年目の教室」「たんぽぽのうた」，テレビ番組・ドキュメンタリー「証言水平社運動」「差別からの解放・胸張ってふるさとを」などの制作にたずさわった。また，「証言水平社運動」で「NHK総局長賞」を受賞された。

今回の講演会では「〝水平〟の心からの創造—取材をとおして思うこと—」と題し行われた。

◇学部研究会

○1987年7月21日（特別例会）　発表者　アレックス・エーデルスタイン教授（ワシントン大学）
「コミュニケーションの国際比較研究における社会構造・文化・状況をめぐる考察」

○1987年12月2日　発表者　カルミ・スクーラー主任研究員（Laboratoy of Socio-environmental Studies National Institute of Mental Health）
「社会学研究に従事する心理学者の展望」

◇会員の新著

○佐々木　薫教授・西山美瑳子教授（分担執筆）
『現代社会心理学』
1987年9月　有斐閣

○倉田和四生教授・浅野　仁教授（分担執筆）
『地域リーダー・要介護老人等の意識及び実態調査報告書』
1987年9月　神戸市市民福祉調査委員会

○倉田和四生教授（分担執筆）
『都市化の社会学理論—シカゴ学派からの展開—』
1987年9月　ミネルヴァ書房

○浅野　仁教授（監訳）
『ケースマネージメント』
1987年10月　相川書房

○森川　甫教授・春名純人教授・村川　満教授（分担執筆）
『現代におけるカルヴァンとカルヴィニズム』
1987年10月　すぐ書房

◇海外出張

○船本弘毅教授　1987年7月22日から8月18日まで，「SMUとの協議，並びに留学生及び英語研修の学生引率」のため，アメリカへ。

○森川　甫・真鍋一史両教授　1987年8月16日から8月26日まで，「米国スカーレット大学院で行われる日米合同セミナーに出席」のため，アメリカへ。

○萬成　博・森川　甫両教授　1987年9月17日から9月20日まで，「蘇州市との友好親善及びランバス先生の墓碑探索」のため，中国へ。

○杉山貞夫教授　1987年10月17日から10月25日まで，「米国人間工学会大会での講演並びに国際人間工学会打合わせ」のため，アメリカへ。

◇社会学部教職員人権問題研修会

○1987年11月11日　発題者　神戸聖隷福祉事業団真生園園長・稲松　斉氏
題目　「障害者の自立について」

学会消息

(国内学会)

○昭和62年度も本会員による活発な研究活動が展開された。届け出があった学会出張を見ても，多岐にわたる研究領域での会員の活動がうかがわれる。哲学宗教から数理科学にいたる広範な領域での学会活動は関西学院大学社会学部の巾を示すものであり，明年度の一層活発な活動を期待したい。

○会員の活動領域を示すため，本年度会合があり，会員が出席した諸学会を列挙しておく。

関西新約聖書学会　日本宗教学会　中世哲学学会　日本フランス語フランス文学会　日本女性学会　日本社会学会　日本都市社会学会　数理社会学会　情報通信学会　日本統計学会　日本新聞学会　組織学会　産業組織心理学会　日本心理学会　日本グループ・ダイナミックス学会　日本応用心理学会　日本教育心理学会　日本宇宙航空環境医学会　日本人間工学会　日本福祉学会　日本老年社会科学会　日本行動療法学会　日本キリスト教社会福祉学会　等である。

(国際学会，及び国際会議)

○学問の世界は本来国際的なものである。最近，本会員も国際的な場において，活動する方々が増えてきた。また，国際学会や国際会議が我が国において開催される例も多く，会員の今後の活動が望まれる。

アジア・カルヴァン学会　国際ファジイ・システム学会　Pacific ISY Conference–A Planning Meeting for the International Space Year Human Factors Society　International Seminar of Flight Safety Foundation 等の会議，学会の大会に本会会員が出席した。

また，これらの国際学会，国内学会の大会，会議においての研究発表や講演等の活動については，その演題を含め以下に記す。

◇国際航空安全協会

昨年10月26日～29日の間，第40回International Seminar of the Flight Safety Foundation が東京全日空ホテルで開催された。本学からは杉山貞夫教授が出席し，“Cognitive Framework of Visual Information Related with Flight Operation”と題する講演を行った。

◇米国人間工学会

昨年10月19日～22日の間，米国人間工学会(Human Factors Society) 第31回大会が米国ニューヨークに於て開催された。本学では杉山貞夫教授が組織計画と設計に関する分科会，宇宙科学分科会において“Human Relations in the Space Station”(宇宙ステーション内作業における人間関係) と題する講演と論評を行った。

◇日米 ISY 準備会議

昨年8月19日～21日の間，第1回日米ISY準備会議が米国ハワイ州コナに於て開催された。本学から杉山貞夫教授が Facilities for Space 分科会委員としてスペース　ステーション内の人間居住性に関する検討を行い，また“Living and Working Facilities in the Space Station”と題する講演を行った。

◇アジア・カルヴァン学会

第1回アジア・カルヴァン学会が1987年10月6日～8日の間，関西学院千刈セミナーハウスにおいて“Calvinistic Heritage in Asia”という主題のもとに開催され，西ドイツ，韓国，台湾，インドネシア，北米，日本から多数の研究者が参加した。

春名純人教授は Calvin's Imago Dei Problem from the Viewpoint of Christian Philosophy と題する研究発表を行い，また，国際カルヴァン学会会長，西ドイツ・ミュンスター大学教授，W. H. Neuser 博士の公開講演“Christliche Gemeinde heute in der Sicht Calvins”の通訳をつとめた。

村川満教授は討議に参加し，また，学会の運営に当った。

森川甫教授はアジアにおける最初の，この国際カルヴァン学会(アジア地域)を，関西学院評議員，日本基督教会東京告白教会牧師，渡辺信夫牧師と共に日本側の発起人となり，代表，渡辺信夫牧師のもとに事務局を担当し，当会を運営した。

◇日本社会学会

第60回日本社会学会大会は1987年10月2日・3日の両日，日本大学文理学部において開催された。

本学部から宮原浩二郎専任講師が「社会学史Ⅰ」のセッションで，「イコノクラストの軌跡：A. グールドナー再考」というタイトルで発表を行った。グールドナー（1920-80）は，産業社会学，機能主義理論，知識人論などで独自の貢献をしたアメリカの社会学者だが，研究分野が多様なためか断片的な評価がなされる場合が多い。発表では，グールドナーの様々な仕事に共通してみられる偶然破壊（あるいは「脱構築」）の傾向を指摘して，その全体像の把握を試みた。発表のあと，アメリカの批判理論の現在の動向や，ヨーロッパの社会理論（ハバーマス・フーコー）との接点について討論がなされ，また，アメリカ社会学におけるアウトサイダーの系譜（ヴェブレン・ミルズ・グールドナー）について意見の交換があった。また，「労働者・労働問題Ⅱ」のセッションでは，萬成博教授，「基礎理論Ⅶ」のセッションでは高坂健次教授がそれぞれ司会をつとめた。さらに真鍋一史教授が第2日の「基礎理論」の部会で「Facet Designの理論と技法—消費者行動調査のケース・データを手がかりとして—」と題する研究発表を行った。

◇日本心理学会

1987年10月12日～14日の間，東京大学教養学部（駒場キャンパス）において開催された日本心理学会第51回大会で，本学から田中國夫教授，土肥伊都子さん（大学院博士課程後期課程）が出席。10月12日に「男女両性具有に関する研究—Androgyny Scaleと男性役割への志向性—」の発表を土肥伊都子さんが行った。

◇日本社会心理学会

日本社会心理学会第28回大会が1987年11月22日・23日の両日，日本大学文理学部において開催された。本学部からは真鍋一史教授が第1日「原理」の部会で「社会調査における質問紙作成のシステマティックな方法の開発—Facet Designの理論と技法—」と題する発表を行った。

◇数理社会学会

第4回数理社会学会大会は10月4日，東海大学湘南学舎で開催された。

本学部からは，高坂健次教授が「フォーマライゼーションの今日的課題」に関するラウンドテーブル・セミナーの世話人をつとめた。

このラウンドテーブルには十数名が参加し，社会学に登場する理論・概念・命題の明確化にとってフォーマライゼーションが果たす役割と，その戦略について活発で自由な討論を行った。

◇日本社会福祉学会

日本社会福祉学会第35回大会は，10月10日・11日の両日，日本福祉大学で開催された。大会テーマは「現代の生活と自立—社会福祉実践の課題」であり，第1日目は自由研究報告，第2日目はシンポジウムがもたれた。

本学からは浅野仁教授が加わる共同研究グループが「老人の主観的幸福観の縦断的研究」を報告し，高田真治教授がシンポジストとして「社会福祉方法論の動向と自立援助の課題」について報告した。

◇日本新聞学会

日本新聞学会秋季研究発表会が，1987年9月25日・26日の両日，中央大学（東京都八王子市）等にて開催された。25日は共同通信社大会議室にて，原寿雄氏の「国際通信社の変貌—経済情報分野への進出を中心として—」と題する報告があり，共同通信社におけるテレレート業務等の見学が行われた。

26日は,中央大学において，午前中は個人研究発表があり，本学部からは真鍋一史教授の「日本人論の内容とその機能に関する実証的研究—内容分析と質問紙調査による接近—」の報告がなされた。この研究は米国スタンフォード大学人類学部のHarumi Befu教授との共同研究にもとづくものであり，この研究に対しては関西学院大学の国際共同研究交通費補助が与えられたことを付記しておきたい。午後からは，堀川直義氏の「生活者としての長谷川如是閑」と題する課題報告のほか，ワークショップとして，(1)視聴率，(2)映像とコミュニケーション，(3)90年代ローカリズムとローカル放送—地域自立の

ためのメディアの役割—、(4)放送法制—放制懇報告をめぐって—，(5)長谷川如是閑とメディアの諸問題，(6)「記者クラブ」制度をめぐって，(7)日本人の情報行動，(8)メディア環境—受け手・利用者との関係において—，(9)太平洋戦争における日米戦意高揚宣伝，(10)生活史とメディア，(11)日系新聞と日米関係，の11分科会が開かれ活発な研究討議が行われた。本学部からは津金沢聡広教授（学会理事），真鍋一史教授，加藤春恵子教授，芝田正夫助教授（学会評論編集委員）が出席，参加した。ワークショップの題目はいずれも，日本新聞学会会員がそれぞれ直面する問題領域の一端を示すと共に，会員の関心の多様性をも反映していると思われる。

◇日本広告学会

日本広告学会第18回全国大会が1987年10月23日，24日の両日，愛知大学豊橋校舎において開催された。本学部からは真鍋一史教授が出席し，「消費者行動と広告の機能—日米の国際比較研究—」というテーマで研究発表を行った。この発表は吉田秀雄記念事業財団の1986年度と1987年度の2年間にわたる助成研究にもとづくものであることを付記しておきたい。

◇日本出版学会

日本出版学会・秋季研究集会が，1987年12月5日,京都市の京都ホテルで開催された。100名を越す参加者があり，本学からは，津金沢聡広教授と芝田正夫助教授が出席した。今回のテーマは「変貌する出版流通」で，パネラーは武塙修氏（株式会社ニッテン），斎藤忠司氏（ブックマートシステム・エンジニアリング社長，関学OB），永守祐一氏（毎日新聞社学芸部）の3氏であった。郊外型書店の増加や，コンビニエンス・ストア（CVS）での出版物の取り扱い，フランチャイズシステムによる書店経営など，最近の出版流通をめぐる課題について，3名のパネラーの発言を中心に，活発な討論がなされた。

その他

このたび故大道安次郎先生追悼文集刊行会は，先生の生前のご業績と慈愛あふれるお人柄を偲んだ追悼文集『大道安次郎先生を偲ぶ』を祥月命日にあたる1月11日に出版した。この追悼文集は，生前,大道先生が歩まれた研究生活一筋の道を中心に学会・関学・知人・子弟ら50名からなる先生への想い出集と告別式の式辞・弔辞の三部から構成されている。また刊行会は，先生の多くの優れた研究業績のなかから，経済学説史として，『スミス経済学の生成と発展』（日本評論社）と社会学として，『高田社会学』（有斐閣）の復刻版二冊をあわせて刊行した。

執筆者紹介（掲載順）

ゲァハルト・A・リッター	ミュンヘン大学教授	ギャート・ホーフステッド	リインバーク大学教授
小関藤一郎	関西学院大学名誉教授	倉田和四生	社会学部教授
山路勝彦	社会学部教授	真鍋一史	社会学部教授
芝田正夫	社会学部教授	浅野仁	社会学部教授
峯本佳世子	社会学部大学院博士課程前期課程	中野秀一郎	社会学部教授

社会学部研究会々員

会長	遠藤惣一		
評議員	杉山貞夫	牧正英	津金沢聡広
	村川満	高田真治	対馬路人
会計監査	半田一吉	船本弘毅	
書記	岡部衛一郎		
名誉会員	青山秀夫	藤原恵	本出祐之
	小関藤一郎	蔵内数太	岡村重夫
	嶋田津矢子	杉原方	清木盛光
	栃原知雄		（ABC順）
普通会員	田中國夫	西尾朗	定平元四良
	萬成博	領家穣	倉田和四生
	武田建	佐々木薫	森川甫
	中野秀一郎	張光夫	中山慶一郎
	J.A.ジョイス	宮田満雄	春名純人
	紺田千登史	西山美瑳子	安田三郎
	真鍋一史	加藤春恵子	山路勝彦
	山本剛郎	鳥越皓之	荒川義子
	安藤文四郎	浅野仁	高坂健次
	芝田正夫	芝野松次郎	立木茂雄
	宮原浩二郎		

関西学院大学社会学部研究会会則

第 1 条　本会は関西学院大学社会学部研究会とよぶ。

第 2 条　本会は社会学および隣接諸科学の研究ならびに会員相互の交流を計ることを目的とする。

第 3 条　本会は上記の目的を達するために次の事業を行う。

1　機関紙「関西学院大学社会学部紀要」の発行。

2　研究会および講演会の開催。

3　研究叢書の刊行。

4　その他本会の必要と認める事業。

第 4 条　本会の会員は次の3種とする。

1　名誉会員　本会の特に推薦するもの。

2　普通会員　本会社会学部専任の教授、助教授、講師および助手。

3　賛助会員　以上の外申込のあったもの。

第 5 条　普通会員は年額19,200円、賛助会員は年額10,000円以上の会費を納めなければならない。納付済の会費は返還しない。

第 6 条　本会員および本学社会学部大学院生・学部学生は機関誌の配布を受ける。学生の講読費は昭和56年度入学生より年額1,600円とする。

第 7 条　本会に次の役員をおく。

1　会長（1名）は、社会学部長をもってあてる。

2　評議員（6名）は、普通会員の中から互選し、本会の運営に当る。

3　編集、会計、庶務の各委員は、評議員の中から互選する。

4　会計監査（2名）は、普通会員の中から互選する。

5　書記は、社会学部事務長に委嘱する。

第 8 条　本会役員の任期は2年とする。重任を妨げない。

第 9 条　本会会計年度は4月1日に始まり翌年3月31日に終る。予算・決算は総会の承認を得なければならない。

第 10 条　総会は年1回とし、本会の重要事項を議決する。臨時総会の開催を妨げない。

第 11 条　本会は事務所を本学社会学部におく。

第 12 条　本会会則の変更は総会の議決によらなければならない。

＜編集後記＞

本年度もいよいよ終わりに近付いてきた。大体，年に二回の紀要の発行という原則は守られ，卒業生におわたしする本号も無事完成できたことは編集者として喜びにたえない。他大学の研究者からも，様々な問い合わせを受けるまでに至ったのは，この紀要の社会的評価が高まったものと考えられる。今や，社会学部の内輪の雑誌としてではなく，社会に公開する雑誌として，われわれはその編集責任を深く感じるものである。ご投稿いただいた諸先生方に感謝するとともに，卒業式でこの紀要を手にする卒業生諸君に対しては，社会と科学の研究とが現代ほど接近している時代はなかったが故に，益々の勉強を切に祈るものである。

（杉山）

1988年3月15日　印刷
1988年3月20日　発行

編集発行人　遠藤惣一
発行所　関西学院大学社会学部研究会
〒662 西宮市上ヶ原一番町
関西学院大学社会学部内
電話(0798)(53)6111(代表)
(内線) 4212

印刷所　尼崎印刷株式会社
〒660 尼崎市北大物町16—55
電話 (06)481—0707(代)

KWANSEI GAKUIN

SOCIOLOGY DEPARTMENT STUDIES

(SHAKAIGAKUBU-KIYO, KWANSEI GAKUIN DAIGAKU)

No. 56 March 1988

The Study Association of Sociology Department

KWANSEI GAKUIN UNIVERSITY

Nishinomiya, Japan